



# 川中だより

令和6年10月31日(木)発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第7号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

先日、新潟県の校長研修会で慶応義塾大学の前野隆司教授の講演を聴きました。前野教授は、ウェルビーイングの第一人者で著書も多く出されています。ウェルビーイングとは、簡単に言うと「短期的な幸福のみではなく、身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、生涯にわたる持続的な幸せ」のことだそうです。

その講演で前野教授が話していた中に「幸福度とパフォーマンスの関係」という話がありました。幸福度が高いと、会社等では以下のような効果があるということです。

### <創造性・生産性>

→幸福度の高い社員の創造性3倍、生産性31%・売上37%高い

### <欠勤率・離職率>

→幸福度の高い社員の欠勤率41%・離職率59%低く、業務上の事故70%少ない

※ハーバードビジネスレビュー2012年5月号「幸福の戦略」より

そして、その幸せが長続きする心的条件として、以下のことを挙げていました。

- ①自己実現と成長(やってみよう因子)、強みや主体性
- ②つながりと感謝(ありがとう因子)、利他的、多様性
- ③前向きと楽観(何とかなるさ因子)、チャレンジ精神
- ④独立と自分らしさ(ありのままに因子)、自分軸

※前野教授のプレゼンより

この講演の中で、前野教授はこれからの先が読めない不安定な時代だからこそ、学校は子ども達にこのような力を身に付けさせ、生涯にわたって幸せに生きていく存在になっていくよう教育活動を展開していくことが重要であることを話されていました。

私はこの話を、川東中学校の生徒達を思い浮かべながら聞いていました。現在、川東中学校は全校生徒が74名という小規模な中学校ですが、生徒達はどのような活動に対しても前向きに取り組み、学習や学校行事、部活動等で大きな成果を上げています。一人一人には、悩みや課題はあるかと思いますが、川東中学校という集団としては、まさに「ウェルビーイング」な状態が作り上げることができているのではないかと感じられます。

去る10月25日(金)に音楽祭を実施しました。学校だよりの先月号でも触れましたが、今年度の音楽祭は、音楽科の兼務教員が週1回しか勤務せず、ピアノ伴奏も職員生徒にいない(リハや本番は新潟大学の学生がボランティアで協力してくれました)。そのような中で、生徒達と学年の先生方で日々の練習に取り組んできました。しかし、その生徒達の姿は、実に見事で先生がいなくても…

①やってみよう因子:自分達でミーティングを繰り返し、より良くなろうと練習しました

②ありがとう因子:仲間と協力し、支え合いながらつながりを大切にしました

③何とかなるさ因子:指導者がいない中で自分達の全力でチャレンジしました

④ありのまま因子:仲間を信じて恥ずかしがらず、自分のもてる最大限の声を出しました

まさに、ウェルビーイングな姿を多くの人に届けることができたのではないかと思います。閉会式での音楽科教員の講評にも「生徒同士の間人間関係が良いからこそ、一人一人が大きな声を出すことができる集団」とありました。また、参加した地域の来賓の方からは「生徒数は少なくなったけど、それを感じさせない迫力があり、4年振りに見に来たけど感動した素晴らしい音楽祭でした」と最大限の誉め言葉を頂戴しました。生徒会のスローガン「No Limit~私たちの挑戦~」を達成し、また一歩前進できたように感じます。